

自律・・・約束やルールなどを守り、自分の言動や行動を制御・調整できる。

自立・・・学年や発達段階に応じて自ら進んで行動を取り、その責任をもつ。

9年間で育てる子ども像 成長目標

		児童生徒の具体的な姿	言語能力 (聴く・語る)	問題発見 解決能力	その他 育てたい力	キーワード 授業等での言葉	積み上げ 段階指標
小学校	低学年 (1～2年生)	基本的な生活習慣を身につけるとともに、自分以外に対しても興味・関心をもつことができる。	うなずいたりつぶやいたりしながら人の話を最後まで聴く。相手の方をむいて言いたいことを区切って、相手に聞こえるちょうどよい声の大きさで話す。	様々なことに好奇心をもち、事実を大まかに捉えることができる。こうしたという願いや想いをもって、物事に取り組みることができる。	挨拶をする、人の話を聴く、ルール・約束・時間を守る、善悪の判断、物事に丁寧に取り組む、礼儀や規律を重んじる態度、自己肯定感	・基本的な生活習慣 ・善悪の判断	☆
	中学年 (3～5年生前半)	自ら目標をもって日常生活を送り、他者を意識した行動をとることができる。他者との協働を通して、社会の一員であることを少しずつ自覚することができる。	自分の考えと比べながら、相手の言いたいことを分かるように聴く。聞き手の反応を見ながら相手に伝わっているかを確認しながら話す。	問題を発見する手立てを学び、解決策を実行することができる。実行した結果から学ぶ意識をもち、問題を深く理解しようとする姿勢がある。	欲求をコントロールする、協働的に行動する姿勢、集団の一員という自覚、自尊感情	・目標をもつ ・他者への理解 ・協働(皆で力を合わせて)	☆☆
	高学年 (5年生後半～6年生)	他者受容を目指し、自分と違う意見であっても肯定的に受け止めることができる。目標達成までの過程を学び、課題解決にむけた取組を模索することができる。	自分の考えをいつ話したらよいのか、自分の出番を考えながら聴く。話し合いの論点に沿って自分の出番を考えて話す。	様々な問題を現実と照らし合わせながら考え、試行錯誤しながら実行することができる。実行した結果を検討する姿勢をもち、事実を正確に把握することができる。	比較してそれぞれの良さに気づく、自己内対話、客観視する力、優先順位を判断する力、リーダーシップ	・それぞれの良さ ・客観視 ・優先順位	☆☆☆
中学校	前半 (1～2年生前半)	環境の変化に対応しながら、立場を踏まえた言葉遣いや態度をとることができる。他者や社会との関わりをより大切にすることができる。			失敗してもくじけない力、周りに助けを求める力、他者を理解する力、主体的に考え積極的に行動する姿勢	・失敗してもくじけない ・周りに助けを求める	☆☆☆☆
	後半 (2年生後半～3年生)	積極的に社会に関わろうとする中で、主体的に考えることができる。自己を研鑽し、多様性を尊重しながら、自他の将来を見据えた言動や行動をとることができる。	多様な考えを認め、自分の考えを深めたり広めたりしながら人の話を聴く。相手のことを考えて、場に応じた話し方や言葉遣いをする。	目標をもって理想を描き、結果を予測しながら協働的に解決策を見出すことができる。問題解決の過程を振り返り、さらなる問題の発見やよりよい解決方法を見出すことができる。	多様性を尊重する力、自己を理解する力、自己調整能力、批判的思考力、メタ認知、新たな価値を創造する力	・多様性を尊重 ・自己調整 ・新たな価値の創造	☆☆☆☆☆